

民主党と連合「ともに生きる社会をつくる」宣言

1. 思いをひとつに

民主党と連合は、未来に向けて希望あふれる国、ともに生きる社会をつくる意志を共有している。

誰もが、明日に向かって、自らの意思によって生き生きと働き、自己実現ができ、日々充実した人生を送ることのできる社会、多様性を理解し合い、互いに補いあう温かく優しい社会をめざし、手を携えてともに進む決意である。

2. 私たちがともに生きる社会とは...

- 一、 持続可能性が配慮された公正な市場のルールとそれを守らせる仕組みを確立し、公正な競争の下、まじめに働く人が報われる社会
- 二、 不公平な格差の是正をすすめ、貧困の固定化や二極化、希望格差のない社会
- 三、 医療・介護・年金など安心と信頼の社会保障制度が構築され、現在・将来ともに安心できる社会
- 四、 すべての子どもたちに教育を受ける権利と機会が保障される社会
- 五、 安心して子どもを産み育むことができる、社会全体で出産・育児を支える社会
- 六、 財源と権限に裏打ちされた真の地方分権が確立した国
- 七、 質の高い雇用が確保され、「働き方」によって格差が生じない、多様なライフスタイルを可能とする社会
- 八、 自ら決して戦いを起こさず、世界の恒久平和を実現し、国際社会の一員として尊敬される国

3. 岐路にある日本

わが国は今、大きな岐路に立たされている。

自民党長期政権が政・官・業の癒着と腐敗の構造を生み出し、官僚の力の肥大化を許し、政策の硬直化をもたらしてきた。

小泉首相から安倍首相へと引き継がれた自公連立政権では、自己の利益だけを考える無秩序な「むき出し」の競争が助長され、犠牲となる弱者が増えるばか

りである。「働き方」による格差から多くの「働く貧困層」が生み出され、その子どもたちは、教育機会の平等すら得られないでいる。マンションの耐震偽装など安心して安全に暮らすことさえできない。コミュニティは崩壊し、凶悪事件が多発する中では、子どもが安全に遊び、お年寄りがやすらぐこともできない。年金も医療も抜本的な改革は遅々として進まず、安心して暮らせる老後は保障されていない。

自公連立政権は、政治の使命を省みず、政府に本来の役割を果たさせていない。このまま、この道突き進むのか、それとも明日への希望のために、新たな道を切り拓くのか、その選択を今、私たちは問われている。

4. 政権交代に向けて

今こそ、将来に向かって安全で安心して暮らせる社会づくりと、そのための政治の使命を果たす政権の樹立が求められている。真の民主主義を確立し、国の行方を正しく導くためには、政権交代以外にはありえない。

民主党と連合は、この認識を共有し、「格差是正」と「安心・公正」社会の実現に向け、すみやかな政権交代をめざし、ともに手を携えていくことをここに宣言する。

2006年10月13日

民主党
代表

日本労働組合総連合会
会長